

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103946号		
法人名	株式会社 ショコラ		
事業所名	グループホーム ショコラうすき		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 宇宿町 2120番地 (電話) 099-275-7075		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年6月17日	評価確定日	平成21年7月4日

【情報提供票より】(平成21年5月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人 非常勤 2人 常勤換算 14. 4	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建て		
	2階建ての 1~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~45,000円	その他の経費(月額)	1,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (5 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	慈愛会今村病院分院、ふるたクリニック、市来歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の住宅地の中にあり、通所介護と宅老所が併設されているホームである。管理者・職員とも「その日その日を最良の日に」の気持ちで、楽しいひと時を過ごせるように、日々のケアに取り組んでいる。職員は、仕事に対して誇りを持ち、また、日々研鑽しながら、より良いサービスの向上に取り組んでいる。「ショコラ便り」の発行を通して、家族とのコミュニケーションが図れている。町内会行事にも参加し、地域のボランティアや体験学習等の受け入れ等、地域に密着したホームを目指している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員で話し合いを行ない、定期的に運営推進会議がなされ、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は評価の意義と目的をふまえて、全職員が自己評価を行ない、ユニット毎で話し合っまとめ、改善点についても話し合い、ケアの向上につながるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、地域の方々や家族等にも参加してもらい、自己評価・外部評価・家族アンケート等での課題を話し合いながら、討議内容を活かした取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や無記名による家族アンケート・「ショコラ便り」や意見要望用ポスト等にて出された意見や要望等は、ミーティングで話し合い、運営に反映するように取り組んでいる。
重点項目④	町内会に加入し、町内の清掃や校区の運動会・夏祭り等の地域の行事に参加している。小中学校の体験学習や幼稚園との交流・地元のボランティアの方々の訪問等、日常的に地域との交流を大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	年1回全体会議で理念について話し合っている。見直しは毎年行ない事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝朝礼で理念に基づいて作られた「行動手帳」を唱和し、理念の実践に向けて日々のケアで取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事・町内清掃・校区運動会・もちつき大会・夏祭り・お月見大会等に参加して地域の方々との交流を図っている。幼稚園のホーム訪問や小中学校の体験学習の受け入れ・ボランティアの訪問等、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行ない話し合いをしている。外部評価の目的と意義をふまえて、評価を活かしながらユニット毎で話し合いを行ない具体的に改善への取り組みを行なっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、そこでの意見を活かしながら改善し、サービスの質向上への取り組みがなされている。年2回家族アンケートも無記名で行なっている。家族会や運営推進会議での話等は「ショコラ便り」にも載せている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症介護について行政から依頼をうけ講演に出かけたりしている。地域包括支援センターとの連絡も取りあっている。予防サービスもなっていて、サービスの質の向上への取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「ショコラ便り」を発行している。「ショコラ便り」は利用者別に紙面を作成していて、担当者からのコメントの記入も行なっている。金銭管理は実費請求を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族アンケートや家族会での意見交換を行なっている。「ショコラ便りポスト」があり、いろいろな意見がポストに寄せられ、それを基に話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動は行なわない。新入職員は、「ショコラ便り」でも紹介し、必要な研修を行なっている。1週間はベテランの職員と共に勤務するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。定期研修計画もあり職員でテーマを決めて勉強会も行なっている。資格取得に挑戦している職員の応援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流や見学訪問実習の受け入れも行なっている。職員も他のグループホームの見学に行ったりして同業者との交流を図っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問は必ず行ない、家族とも相談しながら馴染みの関係を作るようにしている。慣れるまで家族が泊まれるように準備もできている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	三味線などや本人が好きなことを話の中で引き出しながら、職員と本人が共に学び支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生き方を中心に考え、話し合いを行なっている。食事時間や入浴等においても、本人本位で検討しながらケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を大切に、担当者会議で職員や主治医の意見等を聞き、利用者本位の介護計画の作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを行ない介護計画の見直しをしている。入退院後の計画や状況変化による見直しも随時行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や希望に応じて、自宅訪問・墓参り・病院受診等の支援を行ない、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしながらかかりつけ医を決めており、適切な医療が受けられるように支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「緊急時の対応及び看取りに関する指針」において方針を事業所として決めている。利用時に同意書も出されている。本人・家族・職員・かかりつけ医等で話し合いを行ない全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応時に注意しながらケアを行なっている。個人情報の取り扱いには十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせてながらケアを行なっている。起床や食事・就寝時間等についても本人本位で行なっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日や週1回好みの特別メニューの日を設けている。利用者の状況に合わせて、利用者と職員と一緒に準備や後片づけを行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、希望があればいつでも入浴可能である。必要に応じて足浴や清拭も行なっている。基本的に個浴を行なっているが、希望により夫婦一緒の入浴支援もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付けや後片付け・洗濯・掃除などのひとり一人の役割や、三味線・裁縫等の気晴らしや日常生活を楽しむように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、外で体操したり・お茶を飲んだり・散歩に出かけたりしている。また、気分転換や体力作りのために、月1回は外食や動物園・紫陽花見学等の外出支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずにドアも開けている。運営者・全職員が鍵をかけることの弊害を起さないように、見守りの支援に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回様々な状況を想定して訓練を行なっている。救命救急講習会にも参加している。地域の方々にも緊急時は協力が得られるように声かけを行なっている。太陽電池で自家発電していて、井戸水をタンクに貯水している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量の記録や毎月の体重測定を行なっている。食事形態の工夫・介護用食品も取り入れて一人ひとりに合わせた支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前が広く椅子が置いてある。ホールは明るくて広く、ソファやテーブルセットが置いてあり、利用者がゆったりと過ごせる空間になっている。壁には貼り絵や季節の飾りがあり、居心地よく過ごせるよう配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は1丁目、2階は2丁目。居室入口には、何丁目何番地と書かれている表札がある。居室には、三味線・写真・ポプリ・ラジオカセット・テーブルセット・テレビ・仏壇・タンス等が持ち込まれ、個性的で利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。